

吉崎建立章(一帖第八通)

文明第三・初夏上旬のころより、江州志賀郡大津三井寺  
南別所辺より、なにとなくふとしのび出でて、越前加賀諸所を  
経回せしめおわりぬ、よつて当国細呂宜郷内・吉崎というこの  
在所・すぐれておもしろきあいだ、年来虎狼のすみなれし・この  
山中をひきたいらげて、七月二十七日より、かたのごとく一字を  
建立して、昨日今日と過ぎゆくほどにはや三年の春秋は送  
りけり、さるほどに、道俗男女群集せしむといえども、さらになに  
んともなき体なるあいだ、当年より諸人の出入をとどむるこころ  
は、この在所に居住せしむる根元は、なにごとぞなれば、そもそ  
も、人界の生をうけて、あいがたき仏法にすでにあえる身がいた

ずらにむなしく奈落に沈まんは、まことにもつてあさましきことに  
はあらずや、しかるあいだ、念仏の信心を決定して、極樂の往生  
をとげんとおもわざらん人々は、なにしにこの在所へ来集せんこと。  
かなうべからざるよしの成敗をくわえおわりぬ、これひとえに。  
名聞利養を本とせず、ただ後生菩提をこととするがゆえなり、し  
かれば、見聞の諸人、偏執をなすことなかれ、

あなかしこ　あなかしこ

(不読)

文明五年九月　日

## 吉崎建立章の大意

文明三年四月上旬に、近江の地から北国へ来て、越前や加賀の各地をまわりました。そして、この吉崎という場所がとくに気に入りましたので、狼などが棲むような土地でしたが、山を切り開いて、七月二十七日に一寺を建立しました。それから昨日、今日と日を過ぎ、もう三年もたってしまいました。

そのうちに多くの人々が集まってきましたが、私がお寺を建てた目的と違ってきた様子なので、今年から仏法を聞く気のない人たちの出入りを止めます。私がこの地に住んでいるのはなんのためかといえば、人間に生まれて、遇いがたい仏の教えに遇いながら、むなしく地獄におちてしまうのは本当に嘆かわしいことなので、

他力の信心を決定し、浄土往生をとげていただきたいからです。  
しかし、浄土に往生しようと思わない人たちは、なんのためにこの  
地に集まるのかわかりませんから、出入りを止めたいと思うので  
す。この地に集まるのは名誉や財産といった欲のためではなく、浄  
土に往生してさとりを得るためですから、このことを聞いた人々は、  
自分勝手な思いにとらわれなくてほしいと思います。